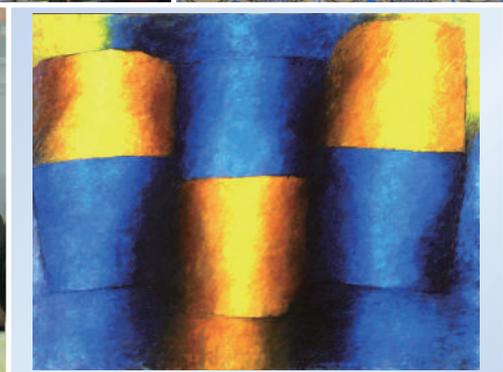


おかやミュージアムニュース

市立岡谷蚕糸博物館 市立岡谷美術考古館だより

Okaya Museum News

vol. **3**



● もくじ CONTENTS ●

市立岡谷美術考古館 開館によせて	2
岡谷美術考古館 平成25年11月3日オープン	2
コラム 引っ越しの思い出	3
岡谷美術考古館の全体図	4
岡谷美術考古館 開館記念展示・イベント	5
製糸工場を併設する新しい岡谷蚕糸博物館の 開館に向けて - 平成26年8月1日開館 -	6
コラム フランス式繰糸機復元機 垣間見た外の世界	7
平成24年度 新収蔵中国復元古代絹織物について	7
岡谷美術考古館ニュース	8
今年度新収蔵品	8
岡谷蚕糸博物館・岡谷美術考古館活動トピックス	8

表紙説明

①	②	③
④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨

- ① 中国古代復元絹織物 そうだいこうごうふく 宋代皇后服
- ② 岡谷美術考古館オープニング・テープカット
- ③ 開館記念イベント 童画館通り土偶だらけ大作戦のようす
- ④ 干支の午まゆ人形「ゆらゆらお馬さん」
- ⑤ 岡谷市童画館通りにオープンした市立岡谷美術考古館外観 おうじりゆうもんきゆうろきん
- ⑥ 中国古代復元絹織物 黄地龍紋球路錦
- ⑦ 第21回岡谷市内小学校児童版画展 岡谷美術考古館長賞受賞作品
「本当はやさしい小悪魔天使」上條 音織さん(長地小5年)
- ⑧ わくわくふれあいシルクサマーセミナー「スゴッ!カイコの絹糸腺が糸になる!」
- ⑨ 収蔵作品 辰野登恵子 TWIN COLORS SEPT-8-2003

市立岡谷美術考古館 開館によせて

岡谷市長 今井 竜 五

昭和45年、市立岡谷美術考古館は、郷土出身の作家の作品を収集・収蔵・展示するとともに、市内の縄文から奈良・平安時代に至る遺跡からの出土品を収蔵・展示するため、すでに開館していた蚕糸博物館に併設する形で開館しました。

以来、郷土に根ざした生涯学習推進の拠点として活動してまいりましたが、新病院建設事業に伴う施設の移転により、新たな場所で、新しい歴史を刻むことになりました。

新たな施設は、中心市街地の童画館通りにありました既設店舗をリニューアルし、平成25年11月3日、文化の日に開館しました。開館日となった文化の日は、美術考古館の歴史の中で大切な日であり、移転前の旧施設も同じ文化の日に開館しております。

このような歴史を継承しながら、新しい環境の中で歩み始めた美術考古館ではありますが、この地への移転は、まちなかに新たな文化施設を設けることで、来館していただく、多くの皆様にまちの中を巡っていただくなど、文化を核にしたまちづくりを推進する拠点を、生み出してみたいと考えたものであります。

既存店舗からの転用ということで、施設の改修にあたりましては、プロポーザルによる選定業者の提案を尊重しながら、できる限り、既存建物の良さを残した設計により、全体的な改修は小規模に留めながら、大変、趣のある美術考古館を整備することができたと感じております。

また、まちの中にある既存の資源を再生し、新たな命を吹き込むという手法は、全国にも誇ることでできる先進的な取り組みであるとともに、新たなまちの顔として、市民の皆様にとりましても誇ることでできる施設に生まれ変わったものと考えております。

現在、岡谷市では、新病院建設をはじめ、長い時間をかけて取り組んできた重要な施設整備のプロジェクトを進めており、美術考古館は、その先陣を切ってオープンしました。

まちなかの美術考古館が活気に溢れ、賑わい創出の拠点となっていくためには、これからが大切であり、今後は、周辺の文化施設や地元の皆様との連携を深めながら、まちの活性化を推進する施設となるよう、皆様と一緒に育ててまいりたいと考えております。



岡谷美術考古館 平成25年11月3日オープン

移転先の決定

移転先は、平成23年度から本格的な検討を進め、施設の現状と課題を整理し、新美術考古館に求められるコンセプト、展示室・収蔵庫などの機能性や施設規模から、いくつかの候補地により、様々な角度から検証しました。

新施設は、郷土に根ざした生涯学習推進の拠点という、従来からの役割を継承しながら、まちなかの集客力を高め、新たな人の流れを生み出す、賑わい創出の拠点施設となるように、童画館通りの既存店舗の活用による移転を決定しました。まちなかに移転することで、周辺の公共施設との連携、回遊性を高めるなど「文化を核にしたまちづくり」を推進していきたいと考えたものです。

プロポーザル審査委員会

移転先での美術考古館の整備に向けては、指名型プロポーザル・デザイン・ビルド方式により、設計業者及び建築業者で構成された共同企業体に対し、設計、施工を一括発注する形式を取りました。

業者選定にあたり、建築及び美術・考古の有識者を含めた審査委員会を設置し、審査委員長には岡谷市出身で美術評論家、現宇都宮美術館館長の谷 新先生を迎え、審査の結果、最適候補者を決定しました。

また、審査委員会からは、最適候補者の推薦に加えて、まちなかに移転する美術考古館が地域に根ざしながら、未来を担う子どもたちが学ぶ場として、より多くの文化情報を発信し、まちなかの活性化に寄与できる施設となるように、4つの付帯事項を提言いただき、設計に反映しています。

ボランティアグループ「土師の会」の協力

公民館の講座を経て、昭和59年に発足した「土師の会」は、市内の遺跡から発掘された土器の復元・修復をボランティアで行う活動をしています。

新施設の展示にあたって、従来から展示していた土器の化粧直しや新しい土器の復元に協力していただき、展示も手伝っていただきました。数千年前の先人が残した文化を、皆様にお披露目できたのも、土師の会の皆様のご協力のおかげと言えます。



土師の会による復元作業

岡谷市美術会会員展

岡谷の美術活動は、終戦直後から活発でした。昭和23年に岡谷美術協会が誕生し、その後、昭和40年に岡谷市美術会が発足しました。以後、洋画・日本画・彫刻・工芸・書の各部門で精力的に活動されています。

こうした歴史のある美術会の協力をいただきながら、開館を記念して、「岡谷市美術会会員展」を開催しました。

総勢87名の作品を展示し、多くの方にご覧いただきました。



岡谷市美術会会員展のようす

童画館通り商業会イベント

移転先の「童画館通り商業会」は、岡谷市でも屈指の商業会と言えます。今回の開館に合わせて、トラック市の開催や、おかやフェスタなどの商業会のイベントとして、美術考古館の開館を記念するコンサート等を企画していただいたほか、各店舗に開館までのカウントダウン・カレンダーを設置するなど、気運を盛り上げる様々なご協力をいただきました。

また、開館日には、施設の一般公開と同時に、屋外での記念コンサートを企画、開催していただきました。



新岡谷美術考古館前での歌声に行き交う人たちも聞き入った

11月3日文化の日に開館

開館は、昭和45年に移転前の施設が本町に開館した日と同じ11月3日に開館しました。

午前10時からテープカット等の記念式典を行い、正午からの一般公開には、多くの方々にご来館いただきました。

「いきにあーと、かえりにこーご。」

これは、開館に合わせ、職員で考えた館のキャッチフレーズです。

新たな一步を踏み出した美術考古館ですが、これからも、市民に愛され、集っていただける郷土に根ざした施設として、皆様とともに歴史を刻んでいきたいと考えています。

5
P114

引越しの思い出!!

ついにやってきました、童画館通りにあった旧店舗を改修して出来上がった新岡谷美術考古館へのお引っ越し。

今年度から勤務し始めた私は、保管場所からの作品の送り出しと移転先での受け手に分かれて作業をしたこの引っ越しの大変さにおおわらわー受け手として作業の際には、運び込まれた作品に付いた番号や作品名を大きな声で読みあげ、目録と照らし合わせるのが大事です。みなさんには当たり前でも、何も知らなかった私は、「松原湖」を「しようげんこー」と大声で読み、とても恥ずかしい思いをしました。爽やかな笑顔の美術梱包・運搬のプロの皆さんもこれには失笑。しかし、次々と運ばれて来る作品に、恥ずかしがってばかりもいられず、淡々と作業を続けたのでした。

こんな失敗を何度か繰り返していても作業が滞りなく着々と進んでいったのは、当日のみならず、それまでの準備と段取りがモノをいいます。業者さんのプロの匠技はもちろんですが、それまでの準備に感謝!

そして、一番感じたことは、作品や資料の多さです。昭和45年に岡谷蚕糸博物館に併設されてからの美術考古館の歴史の長さや深さを感じました。そして、この素晴らしい作品や資料を早く多くの皆様に観て頂きたいと心に強く思ったのでした。

11月3日の開館記念式典では、開館までに本当に多くの皆様に関わって頂き、感謝しきれない思いでいっぱいになりました。今後は、皆様より頂いた応援の声に少しでもお応えできるよう感謝の気持ちで頑張っていきたいと思えます。



岡谷美術考古館の全体図



3F

多目的スペース

講演会や、講座などの開催ができます。



考古展示室

『発見、原始古代の岡谷』をテーマに、市内の遺跡から出土した、縄文から平安時代までの出土品を展示しています。



体験学習スペース

縄文時代の狩り体験や土器復元パズルなど、さまざまな縄文体験ができる学習スペースです。



美術展示室

岡谷市の美術の礎を築いた郷土の作家の芸術作品がご覧いただけます。



2F

1F

交流ひろば

ワークショップなどの会場のほか、学校の子もたちや市民のみなさんが生涯学習の成果を発表できるスペースです。



交流ステーション

様々な情報を見ることができ、交流できる休憩スペースです。



企画展示室

当館主催の特別企画展などを行う展示室です。特別企画展開催時以外には市民ギャラリーとしてもご利用いただけます。



市立 岡谷美術考古館

〒394-0027 長野県岡谷市中央町一丁目9番8号

TEL 0266-22-5854 URL <http://www.okaya-museum.jp/> Email art@city.okaya.lg.jp

【開館時間】 午前10時～午後7時 【休館日】 毎週水曜日、祝日の翌日、12月29日～1月3日

【入館料】 〈おとな〉350円(常設) 〈子ども〉150円(常設) ※特別企画展は別途料金

岡谷美術考古館 開館記念展示・イベント

開館記念特別企画展「小磯良平版画展」

美術考古館の新たな出発の第一回目となる企画展は、卓抜した描写力による気品あふれる女性像を描いた、昭和画壇の巨匠、小磯良平の版画作品を展示いたしました。

岡谷市では、「童画」という言葉を創造し、その分野を開拓した武井武雄が昭和20年にふるさと岡谷に疎開した折、結成した文化団体「双燈社」が戦後芸術の種をまき、その芽は武井吉太郎、小口作太郎、増澤荘一郎などにより、大きな木へと発展しています。

子どもからおとなまで版画活動が盛んに行われている岡谷市において、小磯良平の類稀なるデッサン力に裏付けられたリトグラフ作品の世界に触れていただき、大変意義のある展示会となりました。



谷 新先生の特別講演会
「小磯良平の画業とリトグラフの仕事」

2階考古展示室

岡谷市内の遺跡からの出土品を通史でたどり、ふるさとの地がたどってきた歴史を知る常設展を作りました。そのために土器復元ボランティア「土師の会」が出土品の復元作業を行っていただきました。また企画展示コーナーでは、「コハク・ヒスイ 古代のヒカリモノ展」を開催しており、お客様は、縄文時代の文物交流の豊かさや装飾品の美しさに驚かれていました。

2階美術展示室

収蔵作品展Ⅰ「岡谷に生きる」と題し、今日の岡谷の美の礎を築いてきた高橋貞一郎、野村千春、早出守雄や武井直也、郷土の芸術文化振興に貢献した増澤荘一郎、山田郁夫、太田谷山、鑄金で名を馳せた和泉湧清、飛躍を遂げて国内外で活躍している宮原麗子、高橋靖夫、辰野登恵子、根岸芳郎など17人の作家の29点の作品を展示いたしました。美術考古館の再出発にあたり、岡谷の美を展望し、皆様とともに歩んでいきたいという思いを受け取っていただけたかと思います。

開館記念ウィーク

- 11月3日(日・祝)オープニングセレモニー(入館無料)
 - ・宇都宮美術館 谷 新館長による特別講演会
 - ・芸術文化ぐるっと満喫スタンプラリー(美術考古館・旧林家住宅・イルフ童画館・岡谷市文化祭(カルチャーセンター))

- ・第2回岡谷まち歩き古本+古道具市 美術考古館(スタンプラリー)・笠原書店・スカラ座・CAMBIO・イルフ童画館

- 11月4日(月)(入館無料)
イルフ童画館連携ワークショップ「～いきに版画 かえりに版画～ミニ画集を作ってあなたもわたしもアーティスト」



版画ワークショップ「うまくできるかな～」

- 11月5日(火)岡谷市美術会による交流ひろば作品鑑賞会
- 11月7日(木)美術展示室ギャラリートーク
- 11月8日(金)考古展示室ギャラリートーク
- 11月9日(土)美術考古探検VOL.1～人体彫刻大実験～
- 11月3日～展示中

人文字写真展「岡谷の好き
なところで開館を叫ぶ」
協力：これからの岡谷を考
える研究グループ



人文字写真の「かいかん」

- 11月3日～11月10日

「童画館通り土偶だらけ大作戦」
協力：童画館通り商業会、諏訪信用金庫童画館通り支店、
これからの岡谷を考える研究
グループ



諏訪信用金庫童画館通り支店
ギャラリィでの展示

- 11月14日(木)

カノラホール共催
第7回緑と湖のまち
音楽祭 ウィンター
ナイトコンサート
～jazzyでartなひと
ときを～



jazzyな調べにうっとり

今後の企画展

平成26年度は企画展示室において「開館1周年記念特別企画展 野口裕史のメタル・どうぶつえん(仮)」や「学校は芸術の宝箱Ⅰ水彩画編」「第22回岡谷市内小学校児童版画展」などを予定しております。また収蔵作品展として「宮原麗子・むつ美 女流画家親子展」(5月15日～8月18日)などを予定しております。考古展示室の企画展示コーナーとして、「発掘速報展」、「土師器、須恵器 古代の食文化」を予定しております。

また、体験学習スペースでは、定期的に体験プログラムを入れ替えながら、ご来館の皆様楽しんでいただけます。

製糸工場を併設する新しい岡谷蚕糸博物館の開館に向けて

— 平成26年8月1日 開館 —

岡谷は明治初年よりわが国の生糸の一大生産地として発展し、その生糸は海外へ輸出され、外国から“SILK OKAYA”と呼ばれてきました。当館は、昭和39年に明治初期からの製糸機械類や資料を時代的背景に基づき展示するわが国唯一の蚕糸に関する博物館として開館しました。これまでの間、地元の皆様はもとより、全国から多くの皆様にご来館頂き、わが国の近代化の礎を築いた製糸業の姿と先人の偉業を学んで頂き、カイコ、繭に始まりシルク全般に触れる生涯学習の場としてもご利用頂きました。

以来、昭和45年に併設・開館した岡谷美術考古館とともに博物館活動を進めてきましたが、その地（岡谷市本町）に新しく「岡谷市民病院」が建設されることとなり、蚕糸博物館は新しい場所として旧農業生物資源研究所生活資材開発ユニット（岡谷市郷田1-4-8、旧蚕糸試験場岡谷製糸試験所）の建物をリニューアルし、再出発することとなりました。現在、その工事を進めており、平成26年8月1日の開館に向けて準備をしています。

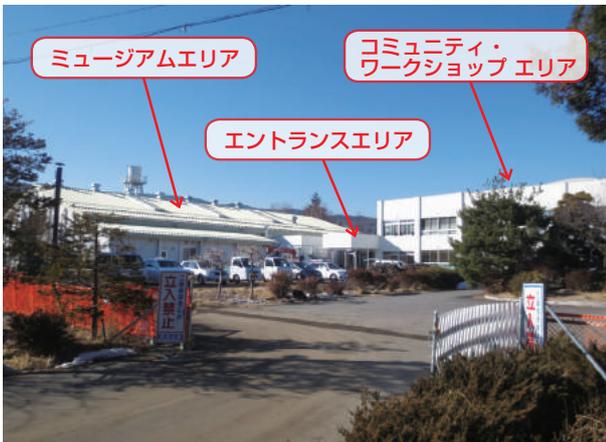


写真1 内部工事が着々と進む新岡谷蚕糸博物館の外観(平成26年1月末)
(建物前方には広い駐車場と市民が憩えるアメニティー広場が造られます)

新しい岡谷蚕糸博物館の役割を次に示します。博物館としてこれまでのように資料の収集・保存展示、そして資料の調査・研究を行います。岡谷市内の(株)宮坂製糸所の生産設備をそっくり博物館内に移転して頂き、実際に上州式座繰り機や諏訪式繰糸機等での糸繰りを行うとともに、見学者自らも繰糸体験ができる動態展示ゾーンを設けます。岡谷で作った糸で絹製品作りを行い、岡谷シルクブランドを発信して行きます。

博物館活動の大きな柱として、これまででも取り組んできましたが、カイコ、繭、糸を通じた子どもたちへの体験学習や地域の皆さんとの生涯学習も充実させていきたいと思っています。こうした活動の中で、養蚕から絹製品まで

この地域で一貫した生産活動ができるようにしていきます。

平成19年に経済産業省より近代化産業遺産として岡谷市内15カ所の建造物、機械類、資料が認定されましたが、それらを紹介するコーナーを設け、遺産群を巡るための起点とします。



図1 新岡谷蚕糸博物館の役割

こうした博物館活動を通じ、以下の3点を使命として活動していきます。

1. 国内随一の蚕糸資料を核に、我が国の近代化を牽引した岡谷の歴史とものづくり精神を伝え、「新しいシルク文化」が生まれるまちを目指し、平成19年に経済産業省によって認定された近代化産業遺産群を活かした文化を核にしたまちづくりを進めます。
2. 蚕糸による小中学校の総合的学習活動・地域活動・生涯学習を通じ「人の育成と社会教育」を行い、安らぎのある憩える博物館を目指します。
3. 岡谷ブランドとしての博物館に併設する(株)宮坂製糸所で生産したシルク、それを岡谷絹工房等で製品化した「岡谷シルク」の魅力を発信し、地域の活性化をもたらす市場性のある博物館を目指します。

館の構成としては、①「エントランスエリア」、②「コミュニティ・ワークショップエリア」、③「ミュージアムエリア」からなります（写真1、図2）。

①エントランスエリア（117.14㎡）は、館内の概要を案内するとともに、「岡谷ブランド」製品の販売を行うとともに、岡谷ブランド情報の発信拠点となります。

②コミュニティ・ワークショップエリア（2階建て、813.40㎡）は、養蚕・機織り・カイコ学習・まゆアート・研修などを行う多目的スペースとなります。

③ミュージアムエリア (1,446.09㎡)は、製糸業の全容を一堂にご覧いただける糸都岡谷ものがたりゾーン、体験ゾーン、(株)宮坂製糸所の動態展示ゾーンから成っています(図2)。

このように新岡谷蚕糸博物館は製糸工場を併設する世界に類のない博物館として、展示・見学はもとより体験・学習活動も充実させ、岡谷ブランドの発信の拠点、観光の拠点として“SILK OKAYA”を発信していきたいと思っています。

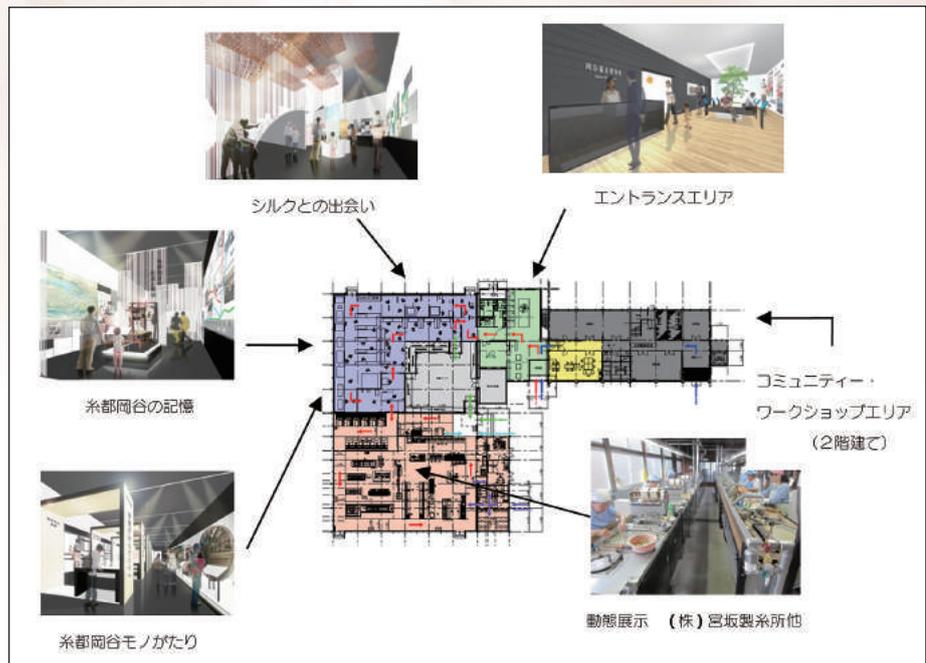


図2 新しい岡谷蚕糸博物館の展示イメージ



フランス式繰糸機復元機 垣間見た外の世界

岡谷蚕糸博物館収蔵のフランス式繰糸機復元機は、今まで博物館の入口に展示されていて、来館されたお客さまにのみ、その姿を見ていただくことができました。

しかし、リニューアルオープンに向けた休館準備中の間、フランス式繰糸機復元機は要請を受け、神奈川県シルク博物館と、福井県勝山市のゆめおーれ勝山へと貸出となりました。これは長野県以外の皆様に、機械と実演も含めて見ていただく貴重な機会となり、皆様には口ぐちに「初めて見る！」と、とても興味深くご覧いただくことができました。

旅を終えて帰ってきたフランス式繰糸機復元機は、倉庫の中で今、新しい博物館で皆様の前に展示されるその時を静かに待っています。



ゆめおーれ勝山での実演のようす

平成24年度 新収蔵中国古代復元絹織物について

平成24年度は、中国蘇州絲綢博物館・中国絲綢織綉複製センターより以下4点の提供を受けました。

そうだいこうごうふく

1. 宋代皇后服 宋代 復元品 (表紙写真①)

北宋の第4代皇帝仁宗(在位1022~1063年)の皇后が景靈宮での朝謁や大切な典礼の際に着用しました。伝統的な宋錦の模様構造と技術により、深い青色の生地に金、黄、紅、藍、白の5色の糸で五彩雲紋(長い尾を持つ雉に似た鳥)を織り上げています。縁は古くから受け継がれている蘇州刺繍で23匹の龍紋を刺繍しています。

あいしあやおりだんりゅうもんそうきん

3. 藍地彩織団龍紋宋錦 清代 復元品

原物は北京故宮博物院に収蔵されています。模様は龍の周りに回紋「八宝紋」を飾り龍紋の尊さを強調しています。八宝紋は仏教中の八宝 法螺・法輪・宝傘・白蓋・蓮の花・宝瓶・金魚・吉祥結びをイメージした模様となっています。



おうしりゅうもんきゅうろきん

2. 黄地龍紋球路錦 清代 復元品 (表紙写真⑥)

模様は大きな円紋を中心に上下左右また四角にそれぞれ小さな円紋が連続して広がっています。大きな円と小さな円の間には鳥獣や幾何学模様があり、このような模様を球路模様といい、円満吉祥の模様です。

ふうきょうやはく

4. 楓橋夜泊 宋錦 掛け軸

蘇州の名所寒山寺を詠んだ詩「楓橋夜泊」(張継)の詩を清代の書家愉樹が書いた書と、清代の画家銭松巖の作品「楓橋夜泊」を組み合わせ、デザインし、宋錦の織り方で製織された掛け軸です。



蘇州絲綢博物館との文物交流を通して、当館の中国古代復元絹織物コレクションは51点となりました。平成24年度をもちまして文物の交流は終了となりましたが、今後もいっそう学術交流を密に行い、当コレクションの研究を深め、皆様にお伝えして行きます。

岡谷美術考古館ニュース

がんめんとしてつきふかばちがたどき 顔面把手付深鉢形土器 海を渡りベトナムへ

文化庁では毎年、日本の優れた文化財を諸外国に紹介する展覧会を開催していますが、今年はハノイのベトナム国立歴史博物館で、日本の文化と歴史に関する資料70点を展示した「日本文化展」を開催しています。

その中で、当館所蔵の海戸遺跡出土・顔面把手も展示され、豊かな造形美の土器を作り出す日本の古代人の思いを、現代のベトナムの方々に伝えています。



ベトナム展覧会の様子

辰野登恵子作品寄贈

平成25年2月に、藤森様より10点ご寄贈いただきました。当時、美術考古館は移転・開館に向けて休館中であったため、すぐに展示することができませんでしたが、開館した新美術考古館にて、平成26年1月23日から収蔵作品展Ⅱ「辰野登恵子 ～不毛なものたちの世界」にて、内7点展示しております。

鮮やかな色彩と独特の形が織り成す辰野作品。見る人の感性により、様々な語りかけてくれています。大勢の皆様のご来館、心よりお待ちしております。



UNTITLED 96-7

今年度新収蔵品

平成25年8月22日に、今井密子様より蚕棚をご寄贈いただきました。全て面とりのしてある木材で作られ、各所に墨書で組み合わせ方の目印が書かれている点などが、一般的な蚕棚に比べて特色があります。また、調査の折には、「明治十二年」の墨書なども見つかリ、この時期の今井家での養蚕に利用されていた事が分かります。養蚕の専用の場所に常設されていたのではないかと推測されます。

平成25年9月26日には宮坂とみ子様から早出守雄作の水彩画（「晩秋」）や色紙作品、年賀状などを寄贈していただきました。宮坂さんのご主人が生前、早出守雄と親交があり、今まで大切に保管されてきたそうです。

また平成26年2月11日に花岡久子様からは、日展無鑑査として活躍している彫刻家 洞澤今朝夫作の日展入選作「早春」（木彫）を寄贈していただきました。



蚕棚の様子



早出守雄作品



岡谷蚕糸博物館
岡谷美術考古館

活動トピックス

平成25年度は岡谷美術考古館のオープンの年でしたが、両館とも年間を通して、さまざまなイベントを開催し、市内外の多くの皆様と出会うことができました。

H25.4/29 シルクフェアinおかや

今年度は初めてシルク関連の作品や製品などを一堂に展示した「シルククラフト展」も開催し、会場のラオカヤは熱気に包まれました。

H26.1/25 めでたいものなんでもあつまれ！ 消しゴムスタンプで 招福万来アイテムづくり

企画展の「中国復元古代絹織物」と合わせて、中国の絹織物に表されている縁起の良い紋様を身近に感じていただきたいと思い、中国と日本の縁起物を消しゴムはんこにしました。皆さん、楽しそうにペタペタスタンプしていただきました。



ここにも、あそこにも、ペタペタ、楽しいなあ

H25.8/2 わくわくふれあい シルクサマーセミナー

（独）農業生物資源研究所のご協力のもと、今年もシルクに触れる夏の1日となりました。カイコの解剖は文字通り「わくわくドキドキ」そして「ビックリ！」でした。（表紙写真⑧）

そして、生糸を染めて綺麗なミサンガづくりも行い、帰る子どもたちの腕には自分だけのミサンガが巻かれていました。



「ほらこんなにキレイに染まったよ」

H26.2/15～3/9 第21回 岡谷市内 小学校児童版画展

版画教育の盛んな岡谷市では、毎年冬になると各小学校の授業で版画が行われます。引き継がれる岡谷市の版画の伝統と、子どもたちの新しい感性が混ざり合った、小学1学年から6学年までのいきいきとした版画作品を一堂に展示します。（表紙写真⑦）



版画展審査の様子

H25.12/13 干支の午まゆ人形づくり 「ゆらゆらお馬さん」

例年大人気の干支のまゆ人形、申し込みは即日満員御礼、販売キットも待ち状態です。大人も子どもも、みんなでまゆ人形づくりに触れる1日となりました。

（表紙写真④）



大人気で所狭しと
みんなでまゆ人形づくり

カイコに始まる学習活動

今年も市内外の小中学校で、カイコの飼育、糸取り体験、まゆ工作、歴史学習など、カイコに始まる学習活動は多岐にわたりました。

子どもたちの心に、ふるさとの産業であるシルクへの思いが広がります。こうやって生糸がつくれるんだあ！



おかやミュージアムニュース 市立岡谷蚕糸博物館 市立岡谷美術考古館だより

発行／平成26年3月18日

発行者／市立岡谷蚕糸博物館・岡谷美術考古館 〒394-0027 長野県岡谷市中央町1-9-8

TEL/FAX 0266-22-5854 URL <http://www.okaya-museum.jp/>

e-mail hakubutsukan@city.okaya.lg.jp または art@city.okaya.lg.jp

制作／株式会社 美 膳 堂

〒394-0034 長野県岡谷市湖畔2-12-29 TEL 0266-22-3562/FAX 0266-22-9598